わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㉛

橋〜中橋

幅1メートルの揺れる板橋

呉服橋の上流、新町から猪名川に架かる中橋は、かつては板を2枚並べた手すりもない、「こんにゃく橋」でした。「渡ると橋が揺れ、川の流れのためか橋が動くように見え、子どものころは怖くてついに一度も渡ることができなかった」と、明治生まれの古老は回想しています。

大正15年（1926）の新聞記事にも、「幅わずか3尺（約0・9メートル）、木橋で交通甚だ不便、少しの出水でも落ち、前年には実に3回も流失した」とあります。その都度復旧に多額の費用が掛かるため、架け替えが計画されますが、費用面から未着工のままになっていることも伝えています。

▲大正ごろの中橋（郷土出版社『北摂今昔写真帖』より）

ちなみに、昭和55年（1980）架橋の現在の中橋は、歩道部分だけでも幅1・5メートルですので、当時の中橋がいかに狭かったかが、お分かりいただけるでしょう。

渡れなかった新・中橋

この懸案だった架け替え計画が動き出すのは、昭和3年（1928）のことです。当初計画の板橋から、幅約4・5メートルの鉄筋コンクリート橋に変更され、欄干は最新式、橋上に電灯6個を備えるとしています。「完成したら、猪名川三橋（絹延橋・中橋・呉服橋）が青い山と清い水との間に一層の風趣を添え、ますます風韻の多い池田町に」と、新聞も大きな期待を寄せる中、4月に伊居太神社で盛大に起工式が行われました。

翌4年5月、ついに新しい橋が完成。ところが、猪名川が大阪府と兵庫県の境界であることから、池田側と川西側で、架橋の経費負担の割合をめぐる問題がこじれ、橋の両側の取り付け道路が付設されない事態となってしまいます。

これにより、府補助金も含め4万3千円もの工費を投じながら、新・中橋は竣工式はおろか、車や馬など一切の通行ができないまま、歳月が過ぎていきました。

呉服橋の代替で

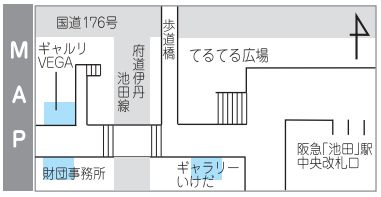
昭和7年（1932）、ようやく事態が打開されます。下流の呉服橋の架え替え工事中、代わりの通行橋として、未開通だった中橋の存在がにわかに浮上したのです。大阪府が池田・川西両町の調停に入り、懸案だった両岸の橋への取り付け道路が付設され、諸車の通行が可能となったようです。結局、望まれた鉄筋コンクリート橋の全面的な開通は、竣工から3年余り、架け替え決定からは実に6年も後のことでした。

ところで、「呉服橋」「絹延橋」という優雅な名前の橋に挟まれた「中橋」。実は後年、両橋にならい、クレハトリ・アヤハトリ伝承にまつわる「穴織橋」への改称の動きも一部あったようですが、実現には至りませんでした。

▲架け替えられた中橋（小田康徳さん所蔵）

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第10回色彩紀行・丹波谷友則展　8/1(水)〜6(月)
- 一彩会・十河廣美水彩展　8/8(水)〜13(月)
- 宮鳥猛パステル水彩展　8/15(水)〜20(月)
- 櫻井聡絵画展　8/22(水)〜27(月)
- 第3回野村素生油彩画展 第1部夏の終りに　8/29(水)〜9/3(月)

【ギャルリVEGA】

- 絹絵の世界（久保義浩）　8/1(水)〜6(月)
- 半蔵作品展　8/8(水)〜13(月)
- 山路の会展　8/8(水)〜13(月)
- 備前・大饗利秀作陶展　8/15(水)〜20(月)
- 大阪大学美術部展　8/15(水)〜20(月)
- ときめき・きらめき・おどろきの折紙展（梅本吉広）　8/22(水)〜27(月)
- 第8回備前焼作家・生陶衆啓作陶展　8/22(水)〜27(月)
- スペイン暮らし断章（伊瀬亘写真展）　8/29(水)〜9/3(月)

【開館時間】10：00〜19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水〜翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㉜

地震と池田

繰り返す東南海、南海地震

鳥取県西部地震（平成12年）、芸予地震（同13年）、十勝沖地震（同15年）、新潟県中越地震（同16年）、能登半島地震（同19年）、そしてこの7月の新潟県中越沖地震。阪神・淡路大震災以降、地震が頻発。日本列島は地震の活動期に入ったといわれています。

近畿地方では特に東南海地震、南海地震への防災対策が急がれています。この地震は太平洋の海底（プレート）が陸の下に沈み込むことによって発生する巨大地震で、ちょうど今から300年前の1707年に起きた宝永地震と呼ばれる地震以降も、1854年に2回、さらに1944と46年にも発生。いずれも大きく見ると、100年から200年の周期で繰り返されています。

幕末、近畿でも大地震が頻発

このうち、1854年の地震が起きたのは、前年の浦賀への黒船来航に引き続いて、ロシア艦隊が大阪湾に滞留するなど、世の中が騒然となっていた幕末のことでした。

この年、近畿では、まず6月に伊勢・伊賀・上野を中心に大きな被害を出した地震がありました。このときは、池田でも2日ほど前から小さな揺れが始まり、15日未明からほとんど一昼夜を通して大小の地震が続いたことが記録されています。

そして11月4日朝、ついに巨大地震が発生。続いて、そのわずか32時間後の5日夕刻にも大きな揺れがあり、夜には各地に大津波が押し寄せました。大阪では大小多数の船舶が市中の川に流れ込み、橋を破壊。津波や家屋の下敷きなどでおびただしい数の人が亡くなりました。

11月4日の地震は「安政東海地震」、5日の地震は「安政南海地震」とされるもので、ともに推定マグニチュードは8・4。被害は東海から九州にかけての広範囲に及び、死者の総数は数千人とも数万人ともいわれています。

人々、家から飛び出す

この地震による池田での具体的な被害状況は分かりませんが、人々が大きな衝撃を受けたことは、当時の日記からもうかがえます。その内容を少しご紹介しましょう。

「11月4日　大地震発生。畏（おそ）るべし、畏るべし。尼崎では十数軒の家が倒壊し、火災も発生。商いに行ったが、ほうほうの体で帰る。大坂では天満天神境内や寺が潰れ、町家の瓦も落ちているとのこと」「11月5日　再び大地震発生。倒壊を恐れ、人々家から飛び出す。雷のような大太鼓をたたくような音がして、空の色が紫雲のようなような怪しい様子となる。高波が押し寄せる前兆と後になって知る」

震災の教訓を後世に

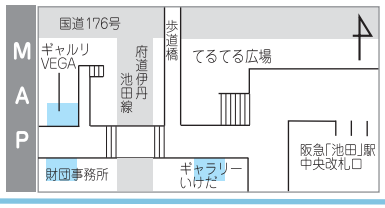
大阪市の木津川に架かる大正橋のたもとには、この安政の大地震の碑があります。そこには宝永大地震の教訓を生かせず、再び多くの犠牲者が出たことへの悔恨の言葉とともに、地震と津波の恐ろしさを後世に語り継ぐようにと刻まれています。

今月は防災月間。阪神・淡路大震災の記憶も、私たちにはまだ新しいところです。過去の災害から学ぶことも、多いのではないでしょうか。

問い合わせは社会教育課市史編纂（城山町3―45、城山勤労者センター内、☎753・2904）

安政の大地震による津波の碑（大阪市浪速区）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】
- 第3回野村素生油彩画展 第1部夏の終りに　～9/3(月)
- 第3回野村素生油彩画展 第2部中国帰りの荒技見せてやる!!　9/5(水)～10(月)
- 「人々との出会い旅」朝倉玲子写真展　9/12(水)～17(祝)
- 吉井正明展「ヨーロッパスケッチ紀行」　9/19(水)～24(休)
- 草花と葉っぱのコラボレーション 小林良子“押し花のアート”展　9/26(水)～10/1(月)

【ギャルリVEGA】
- 「スペイン暮らし断章」伊瀬亘写真展　～9/3(月)
- 第7回グループ“翔”展　9/5(水)～10(月)
- 「キルティングbee」のパッチワーク展　9/12(水)～17(祝)
- 糸で綴る色彩と線の刺繍展（石田澄江）　9/19(水)～24(休)
- 第7回深山会会員展　9/26(水)～10/1(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより㉝

池田の税

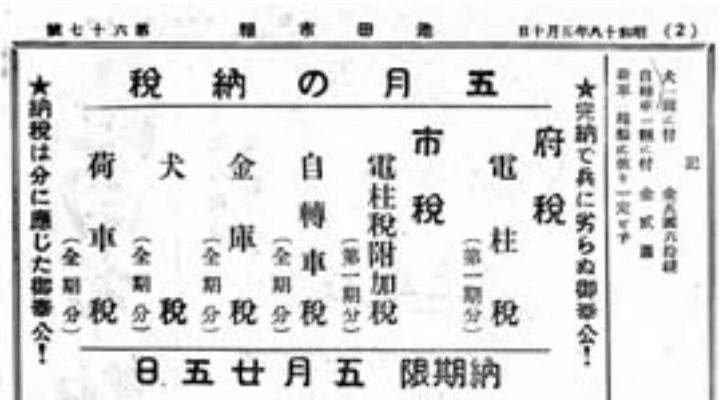
犬にも税金

金庫を持つと税金。犬を飼うと税金。扇風機や荷車、自転車を持っても税金。そんな池田の市税が、かつてあったことをご存じでしょうか。戦前のことです。戦後には、それらの税種に加えて、ミシン、楽器、使用人、舟などが新たに課税対象となりました。

それぞれの税額は、犬1匹600円、扇風機1台300円、ピアノ1台800円、電気蓄音機1台600円、ミシン1台200円、荷積み用の牛馬車1台840円、自転車1台240円、使用人は1人600円（いずれも昭和24年度の年額）などとなっています。

面白いのは金庫の課税方法で、中身は一切関係なしの、体積で算出され、1立方尺（約30立方㌢）当たり30円でした。あまり見えを張ると、少々高くついてしまったかもしれませんね。

当時の池田市では、扇風機が24世帯に1台、ミシンは4世帯に1台、自転車は10人に1台という保有率です。ちなみに、はがきの郵便料は2円、ゴールデンバットという銘柄のタバコが1箱30円という時代でした。


池田市報　第六十七號　昭和十八年五月五日（2）

★完納で兵に劣らぬ御奉公！

府税
電柱税（第一期分）
市税
電柱税附加税（第一期分）
自轉車税（全期分）
金庫税（全期分）
犬税（全期分）
荷車税（全期分）

五月の納税

納期限　五月廿五日

★納税は分に應じた御奉公！

犬一頭に付　金六圓八拾錢
自轉車一輛に付　金　貳　圓
荷車　牛馬に依り一定です

▲昭和18年の池田市報より

市の独立税として

これらの税が導入されたのは、昭和15年（1940）のことです。この年の税制改正により、自転車税などの一部税源が市町村に委譲されると同時に、市町村民税のほか、前述したような市町村独自の独立した税源が、全国で新たに設けられることになりました。

しかしながら、それらの大半は零細な税であったために安定した財源とは程遠く、池田市の場合、戦前では平均しても、税源の20㌫にも満たない程度でした。市の税収の大半を、市独自の独立税が占めるようになるのは、戦後昭和25年のシャウプ勧告による新税制施行以降のことです。

納税くじ

このシャウプ新税制で、池田市では、犬税・扇風機税・金庫税が廃止になりましたが、自転車税や荷車税は、昭和33年まで存続していました。

さらに当時は、納税奨励などのため、納税くじが行われたこともありました。期日までに固定資産税や市民税を納税すると、抽選で賞金やタオルがもらえ、当初、1等は3000円、2等は1000円、3等は500円で、好評を博したようです。

▲第1回納税くじの抽選（昭和28年の池田市報より）

いずれも、今となっては古きよき時代のことのようですが、実は、昭和57年まで、長野県の旧四賀村（現松本市）では犬税が残っていました。税源や納税率向上を求めて四苦八苦するのは、いつの時代も共通のテーマのようです。

問い合わせ・資料のご提供は社会教育課市史編纂（☎753・2904）

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻（地理・考古・古代・中世編）3,500円、第2巻（近世編）4,200円、第3巻（近代編）編纂中、第4巻（現代編）編纂中、第5巻（民俗編）4,500円

★販売場所

社会教育課（市役所5階）、城山勤労者センター、歴史民俗資料館、中央公民館、五月山体育館、池田城跡公園売店、五月山公園売店、いけだ市民文化振興財団事務所、市民文化会館、青年の家、耕文堂書店、甲川正文堂

わがまち歴史散歩

市史編纂だより㉞

池田に電気が灯るまで

当初はランプ生活だった室町

池田市域の一般家庭に電灯がついたのは、いつごろからでしょうか。

明治43年（1910）、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）の宝塚線の開通に伴い、同社による電灯への電気の供給が北摂の一部に始まります。この年に分譲が開始された室町住宅も、「模範的郊外生活」として電灯設備がうたわれていました。

一方、前年に川辺郡東谷村（現川西市）に設立された猪名川水力電気でも、同43年暮れ以降、北摂数町村へ電灯の電気供給を開始した、とされています。

ただ、室町では、当初2年ほどは電線が張られておらず、石油ランプでの生活だったようで、池田の旧家の日記に電灯の話題が登場するのも、明治45年からです（『池田市史』史料編⑥）。こうしたことから、両社とも池田での当初の供給区域や正確な時期は分かっていませんが、遅くとも明治末までには、池田市域の一部に電気の供給が始まったといえるでしょう。

▲大正末ごろに阪急が売り出した電気七輪の広告（永興寺提供）

地元池田の発電計画

ところで、これら2社による電気供給に先行して、地元池田でも発電計画がありました。ごく最近、この発電計画と思われる当時の新聞記事が見つかり、具体的な様子が分かってきました。

紙面では、明治40年10月、池田町の酒造家が、電灯発電所として荒木町（現大和町）の旧精米所を修繕して30馬力の蒸気機関を設置、翌年3月から点灯する予定であること、12月には、既に発電所が落成し、大阪まで検査出願していることを伝えています。

さらに、翌明治41年1月には、酒造家の事業主自らその計画を発表しています。そこでは、最初は10燭光（約10ワット前後の光の強さ）で400～500戸へ供給するが、低圧のために遠距離には送電できないこと、そして料金を設定の上、予約募集に掛かるつもりであることを語っています。

時代のパイオニア

しかし、残念ながら、この発電計画は実現しませんでした。許可を受けていた権利は猪名川水力電気に譲渡されてしまいます。その後、猪名川水力電気は阪急電鉄に合併され、さらに、昭和17年（1942）、関西配電（現関西電力）に引き継がれ、今日に至ります。

幻に終わった池田の発電計画ではありましたが、その事業主は、「電灯会社をつくって池田町全体に電力を供給することにすると停電の心配はなし、経費も安く町民も喜ぶから一つやってみよう、その上で町営に移すことにしてみては！」と呼び掛けたとされています。

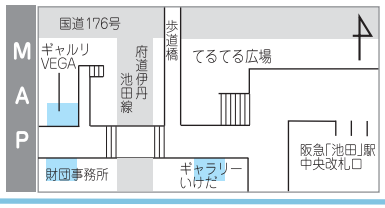
このことは、発電という当時の先端事業を、町の発展を見据えながら手掛けようとした、近代池田の人のパイオニア精神と心意気が感じられるエピソードではないでしょうか。

★池田市史の刊行状況

『新修池田市史』第1巻3500円、第2巻4200円、第5巻4500円、第3巻（近代編）と第4巻（現代編）は編纂中。

問い合わせは社会教育課市史編纂（城山町3―45、城山勤労者センター内、☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 松浦敏夫「ヨーロッパの旅銅版画展」 ～11/5(月)
- 出口彰水彩画展 11/7(水)～12(月)
- 汪洋洋画展 11/14(水)～19(月)
- 杉若博美「油絵とパステル画」 11/21(水)～26(月)
- 加藤信子個展 11/28(水)～12/3(月)

【ギャルリVEGA】

- 江原和足展「思い出の阪急電車」 ～11/5(月)
- 第30回彩赤会展 11/7(水)～12(月)
- 遊・織・染・色 11/14(水)～19(月)
- 洋裁サークル「四角い布と和」 11/21(水)～26(月)
- 第6回旺美展 11/21(水)～26(月)
- すみ工房師弟展 11/28(水)～12/3(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㉟

橋～絹延橋

流れ橋

猪名川に架かる木部町の絹延橋。池田に残るクレハトリ・アヤハトリの機織伝承に、その名前が由来するとされています。『昭和初期の池田子ども物語』（平成12年刊行）によると、絹延橋は、昭和の初めまで簡単な木製の橋だったそうです。費用の問題もあり仮橋が主で、洪水のたびに橋が流れるため、「流れ橋」と呼ばれていたとも記述されています。また、郷土史家も、「出水ごとに橋板を取り外したりまた流失もしていた」と振り返っています。

朝日新聞の大正11年（1922）10月の記事に、住民が寄付を渋っているために、流失した絹延橋の再架橋が困難であることを伝えています。それもそのはず、流失した橋は、架橋費1万3000円のうち8000円余りもの金額を住民が寄付し、同年5月に架けられたばかりだったからです。ちなみに、この流出した橋の長さは42・5㍍、幅2㍍。地元木部町には、木橋時代のものと思われる、絹延橋の架橋のための寄付帳や水害による復旧工事設計書などが、今でも残されており、当時の苦労がしのばれます。

▶絹延橋とにぎわうボート（北村幸一さん提供）

郡内一のモダン橋

このような状態の木橋も、昭和7年（1932）の呉服橋や同4年の中橋と相前後して、同6年、ついに現在のコンクリート橋脚の橋に架け替えられました。

竣工は同年10月7日。長さ65㍍、幅5㍍余り。「郡内一のモダン橋」として当時の紙面を飾った写真には、今はない美しい照明塔が誇らしげに写っています。開通式は翌々日の9日。橋中央に祭壇を設け、府会議員や池田警察署長代理、地元細河村（現伏尾・吉田・東山・中川原・古江・木部）の村長などの祝辞の後に、小学生が日の丸の旗をかざして渡り初めを行ったと伝えています。

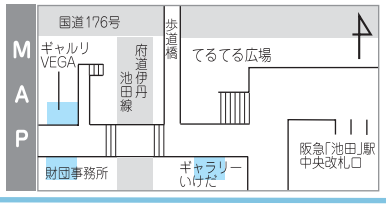
絹延橋をくぐると…

ところで、この絹延橋の下流の中橋付近には、昭和16年ごろまで、2軒の貸しボート屋が営業していました。中橋の下流にせきがあり、この辺りは湖水のようになっていたのです。元本市文化財保護審議会会長の中島正雄さんによると、それぞれの店には20～30艇ほどのボートがあり、黄色と赤色で区別され、料金は二人乗り1時間10銭。季節には、池田師範学校（現大阪教育大学）の生徒や親子連れでたいそうにぎわったそうです。

ボート遊びの範囲は、中橋から絹延橋まで。それより川上は浅瀬で、ボートを乗り捨てて帰る者もいたため、絹延橋より上流へは行ってはいけないことになっていました。しかし、禁止されると余計に行きたくなるもの。小学生のころよくこの貸しボートで遊んだという同氏は、何度もこの絹延橋をくぐって上流までこぎのぼっては、橋の上から自転車で見回りに来るボート屋に怒られたと回想されています（『昭和初期の池田　子ども物語』）。

問い合わせは社会教育課市史編纂（城山町3―45、城山勤労者センター内、☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 加藤信子個展　～12/3(月)
- トスカーナの空・風 ―山路均油彩・スケッチ展―　12/5(水)～10(月)
- 上西笑子水墨画展（南北墨画会）　12/12(水)～17(月)
- 塩野麻衣子・梶原美紀日本画二人展　12/19(水)～24(休)

【ギャルリVEGA】

- すみ工房師弟展　～12/3(月)
- 富永壽子作品展　12/5(水)～10(月)
- 清人＆葉子にっぽんの服展　12/5(水)～10(月)
- 池田市美術協会会員第9回VEGA賞受賞者展　12/13(木)～17(月)
- 大阪青山短期大学幼児教育・保育科「子どもと造形」作品展　12/19(水)～24(休)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日、12/25(火)～1/8(火)
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊱

都市提携をめぐって

姉妹都市からの贈り物

昨年11月、姉妹都市のオーストラリア・ローンセストン市から五月山動物園に新たに寄贈された2頭のウォンバット。皆さんはもうご覧になりましたか。この日本で一番小さな動物園にはカンガルー科のワラビーもいます。これも同じくローンセストン市から贈られたもので、ウォンバットとともに、動物園を訪れる子どもたちの人気者となっています。

ペンフレンドがきっかけで

池田市とローンセストン市が姉妹都市提携を締結したのは昭和40年（1965）11月1日。市内の高校生が、ラジオの英会話を通じてローンセストン市の女子学生と始めた文通が、そのきっかけとなったことをご存じの方も多いと思います。

今や1500を超す日本の都市が、海外との姉妹都市提携を結んでいますが、当時はまだ80都市ほどしかなかった時代でした。その大半はアメリカで、現在は100件以上もあるオーストラリアの都市との提携は、奈良県の大和高田市に次いで2番目のことでした。

また、昭和56年（1981）6月6日には、クレハトリ・アヤハトリの機織り伝承とゆかりのある中国・蘇州市と、市民交流による友好促進の機運が盛り上がり、友好都市締結を行いました。

ほかにも候補都市が

日本と海外との最初の姉妹都市提携は、昭和30年（1955）の長崎市とアメリカ・セントポール市でした。戦後復興が一段落して、国際交流に目を向けるゆとりが出てきたのでしょうか。

本市でも、ほどなく海外との都市提携をめざす動きが始まったようです。昭和36年、カナダ・ウィニペグ市に姉妹都市の申し込み予定との記事が、新聞に登場します。38年には、PRのためアメリカのサンマテオ市へ池田市紹介資料を送り、アメリカ領事のアイセントさんが池田市役所を訪れます。しかし、ともに実現には至りませんでした。

翌39年には、アメリカ・ロサンゼルス市やオークランド市へも紹介資料を送ります。同年6月、前述の高校生からローンセストン市との姉妹都市提携に協力してほしいとの申し出があり、両市の活発な人的交流などにより話が進み、同市との都市提携が実現しました。

なぜ姉妹都市、友好都市

姉妹都市というのは、アメリカ英語のSister Cityに由来するもので、イギリス英語ではTwin Cityというなど、各国語でさまざまな表現が使われているようです。

どちらが姉でどちらが妹か、という話になってはいけないということから、姉妹都市ではなく友好都市という呼び方をすることもあります。

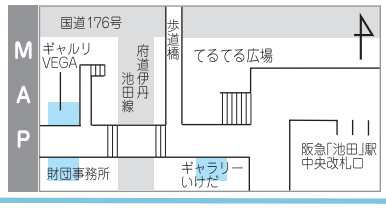
問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

▶ローンセストン市との調印式

◎おわびと訂正

本誌10月1日号の本コーナーで、金庫の課税方法について、「1立方尺（約30立方チセン）」とあるのは「1立方尺（約30チセン立方）」の誤りでした。おわびして訂正します。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 前田勘治展（油絵とわたし） 1/9㈬～14㈷
- 奥田美紀陶芸展 1/16㈬～21㈪
- 秦井直太郎個展 1/23㈬～28㈪
- 第2回「京友禅の心・鹿取紫雲展」 1/30㈬～2/4㈪

【ギャルリVEGA】

- 手ぬぐい百年展―浮田光治コレクション―（特別出展タオル木版型） 1/9㈬～21㈪
- 第2回水墨画・ひろむ会展 1/23㈬～28㈪
- 第9回京都きもの絵師とその仲間達展 1/30㈬～2/4㈪

【開館時間】10：00～19：00（手ぬぐい百年展とひろむ会展は10：00～18：00。最終日は16：00まで）
【休館日】～1/8㈫、火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂だより㊲

十三～池田のバスの一風景

新聞の記事から

昭和8年（1933）1月の大阪朝日新聞に、大阪府内郊外の特色あるバス路線が紹介されました。真っ先に取り上げられたのが、十三から池田までの阪神合同バス（現・阪急バス）です。当時の雰囲気をユーモアたっぷりに、とてもよく伝えていますので、今回は、「乗り込むお客に車掌が呆れる」と題されたその記事を要約してご紹介します。

▲当時の阪神合同バス（『阪急バス三十年史』より転載）

「阪急にしやはった方が…」

記者が十三の阪神合同バスのガレージで、池田行きのバスの有無を尋ねると、ストーブを囲んでいた車掌は「あることは立派にありますけどな、それが一日四回か五回出るんで、すこぶる頼りないバスでしてなァ…、時間も大ぶん長いことかかるし、まあバスに乗るのはやめて阪急にしやはった方がよろしおまっせ！」といった調子。

出発時間はとなると、「多分1時ごろらしい」という話。さらに、その時刻を過ぎても一向に出る気配なし。思わず記者は「暢気なものだ、まるでお客なんかてんで眼中にない、羨ましい位悠々たる営業ぶり、大阪広しといえども、こんな珍奇な交通機関はどこにもないといつていい…」と述べています。結局予定を30分過ぎてようやく発車。

タイヤと相席

バスに乗ってみるとさらにびっくり。大きなタイヤが二つ積まれています。車掌の説明によると、お客の少ないバスは、時々トラックの代わりにもなっていたようです。傑作なのは、車掌が「タイヤと同乗するお客には同情したとみえて」池田までの60銭の正規運賃をなんと50銭に。

車体はシボレー8人乗りですが、シートの表面もくたびれ、「古色蒼然たる老朽車」とあります。それでも開通したばかりの産業道路（国道176号）に出ると、アスファルトが敷かれた豊中までは「お客は一人も乗らないから停留場も何もない、ノンストップの躍進ぶり」。ところが、その先の凸凹の田舎道になると、「寂しい酔っぱらいのようによたよた」というような状況だったようです。

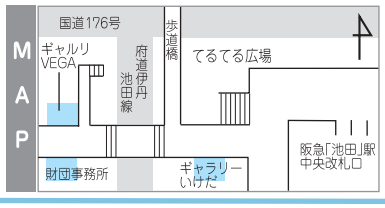
日本一の閑散なバス

当時、十三～池田間は阪急電車なら23分で24銭。ところがこのバスは40分以上かかって60銭。この「一日走って料金が二円も上れば大成功だといふからこれではガソリン代もでない」という赤字路線を死守しているのは〝阪急宝塚線の競争相手の出現を防ぐため〟としています。すなわち、このバス路線は、もともと池田で誕生した阪北自動車というバス会社が、昭和3年に免許を取得したものを、将来、並行に走る自社の宝塚線の脅威となることを恐れた現在の阪急電鉄が、昭和7年に吸収合併して継承したものだったのです。

結局、この日、池田まで記者以外の乗客は、蛍池から石橋まで乗った「会社の人の奥さん…つまりタダのお客さん」のみ。「日本一の閑散なバスは、こうして殆ど空車のまま田舎路を毎日根気よく往復している」と、あまりありがたくない日本一の評価を記事にしたのでした。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 第2回「京友禅の心・鹿取紫雲展」 ～2/4(月)
- 古川治代金工展 2/6(水)～11(祝)
- 岡田千枝子絵画展 2/13(水)～18(月)
- 神秘の世界（仏像と自然の憩・小松烈） 2/20(水)～25(月)
- 船越修日本画展 2/27(水)～3/3(月)

【ギャルリVEGA】

- 第9回京都きもの絵師とその仲間達展 ～2/4(月)
- 15人の機織り鳥のおしゃべり 2/6(水)～11(祝)
- 梅花女子大学短期大学部「生活の中の美・アート展」 2/13(水)～18(月)
- 岩井美津子展 2/20(水)～25(月)
- 手作りグループ「輝き」 2/27(水)～3/3(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊳

池田の水道①

懸案だった水道敷設

江戸時代から、日照りが続くと井戸の水が枯れ、ときには飲み水さえも事欠くことのあった池田では、上水道の敷設が大きな課題となっていました。大正12年（1923）の新聞の記事に、近年池田町付近一円の飲料水などの不足が甚だしく、敷設の要望が盛んになったため、町長が水道計画の設計を委嘱してまとめさせたことが出てきます。同14年、調査を行って水源地も内定し、翌々年の昭和2年（1927）には、町会を通過するまでに至ったようですが、結局、このときの計画は実現しませんでした。

上水道の水源掘削工事（昭和12年、槻木町）

私設の水道

ところで、こうした動きがあったさなかの大正13年、酒造の仕込水が毎年払底するのに悩まされていた醸造家が、ついに「しびれを切らして」共同で私設上水道敷設計画を出願するに至ります。新聞の紙面では、猪名川筋に貯水場を設け、電動で水をためた上で分送、水路の途中数カ所に飲料用の共同給水場を設けて一般にも提供する計画で、同年末には通水、ごく一部とはいえ、実際に町家に給水されたことなどを伝えています。しかし、維持経費多額のため、この試みは大正末ごろには残念ながら廃止され、ごく短期間で終わったようです。

最近、市内で今も続く醸造家にお話を伺ったところ、水道が整備される前、酒造用の水が足りず、猪名川から鉄管を埋設し、直接水を引いていたこともあったと先代から伝え聞いておられました。さらに、近年、隣家の工事中に、この造り酒屋に向かって用途不明の鉄管が埋設されていたのが見つかったとのことでしたから、もしかすると、このときの私設の水道のものだったのかもしれません。

昭和の事業計画、着手さる

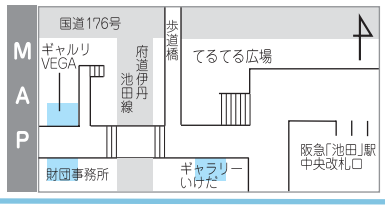
多年にわたって切望されながら設置されなかった池田の上水道ですが、昭和8年（1933）ごろから、再び実現に向けて動き出します。事業計画は、最終的に給水人口3万5千人、事業費65万円という、当初のおよそ2倍にまで拡充されました。

水源は地下水に求め、はじめに現在の槻木と城南に9カ月近くかけて深さ200メートル以上の地下水を掘削。水量は十分だったのですが、水質が適当でなく、浄化に多額の経費が掛かるためにやむなく放棄。結局水源は木部の余野川左岸の地下水に変更されることになりました。

ちなみに、このときに放棄された城南の地下水が、その後、温泉の共同洗濯場として地元住民を中心に昭和40年ごろまで利用されていたのは以前、紹介したとおりです（17年10月1日号参照）。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 船越修日本画展 ～3/3(月)
- 酒向克典陶芸展 3/5(水)～10(月)
- 山本ソノ油絵作品展 3/12(水)～17(月)
- 墨の絵―宮本信代 3/19(水)～24(月)
- 白井武志水彩画展 3/26(水)～31(月)

【ギャルリVEGA】

- 手作りグループ「輝き」 ～3/3(月)
- 安曇野と奥入瀬を中心とした―岡宏日本の風景展― 3/5(水)～10(月)
- ものもの舎AHA―和の心を今に― 3/12(水)～17(月)
- フラワーアレンジメント教室 クレアシオン発表展示会 3/19(水)～24(月)
- 豊池印会篆刻15周年展 3/19(水)～24(月)
- 久保義浩―絹絵の世界― 3/26(水)～31(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊴

池田の水道②

困難を重ねた事業

昭和12年（1937）12月末、水源地に決まった木部で起工式が行われ、ようやく念願の上水道工事が始まりました。しかし、その後も幾多の困難が待ち構えていました。

その一つが工事用資材の調達でした。折しも日中戦争が拡大し、鋼管などの接続に必要な鉛などの入手が困難となっていました。水道施設担当だった助役は、上京して日々関係当局と折衝、日本鋼管らを煩わして香港から鉛50トンを直接輸入することに成功したと、当時の苦労を振り返って語っています（『週刊北摂朝日』昭和36年3月26日）。

資材調達にめどが付くと、今度は水害が襲いました。昭和13年7月、当時50年来といわれた阪神大風水害では、完成間近だった集水管埋設工事が被害を受け、その復旧作業中にまた水害に遭うなど、苦難の連続でした。

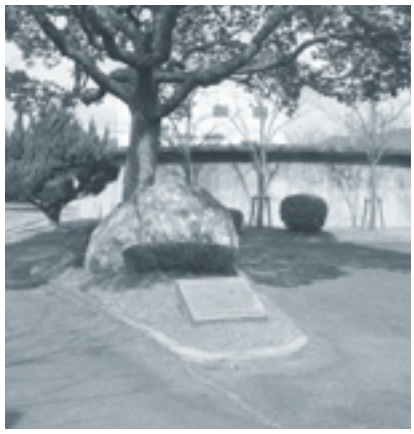
▲猪名川の呉服橋下手に浮かべられたクジラの作り物（中島正雄さん提供）

待望の通水式

こうした幾多の困難を乗り越え、ついに昭和13年11月、通水を開始。12月5日には木部の水源地で通水式が行われています。猪名川では9㍍ほどの作り物のクジラが浮かべられ、水道管を通じて潮を吹くという趣向が凝らされ、池田公会堂では祝賀会が催されました。

総工費は、最終的には当初予定の約3倍余りに膨れ上がり、約100万円。昭和13年度の池田町の一般会計予算が59万円余りでしたから、当時の財政規模のおよそ2倍もの巨費が投じられたことになります。

昭和14年4月末ごろでは、1500戸の申し込みに対して、まだ130戸足らずの給水でしたが、配水管の埋設が急ピッチで進められ、年内には市内一円に順次拡大されていったようです。なお、当初の水道料金は、一般家庭で10立方㍍までの基本料金が1円、超過料金は1立方㍍につき9銭でした。



◀水道発祥の地に建つ記念碑（木部町）

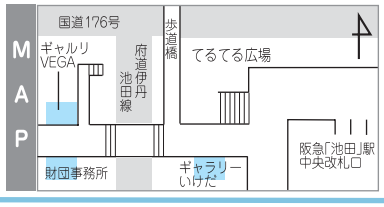
水の安定供給をめざして

その後、人口増加などに伴って数次の拡張事業が行われ、水源も余野川から猪名川、一庫ダムを加え、現在では府営水道も受水しています。昭和22年には38㌫程度だった普及率は、同43年には99㌫以上に達しました。現在の第6次拡張事業が終わると、給水人口は創設期の3倍以上、給水能力では実に15倍以上となり、地震などの災害にも強いライフラインが構築される予定です。

当初の水源地近くに設けられた木部浄水場の跡地（現排水処理場）にある、池田市水道の発祥記念の石碑が、先人たちの苦労を静かにしのばせてくれます。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 大江山から木と織布のしつらえ展（大野博史） 4/2㈬～7㈪
- 第49回池田市美術展 4/13㈰～19㈯
- 「猫気分」二口圭子銅版画展 4/23㈬～28㈪
- ～水墨画でゆくヒマラヤ紀行～足立勇水墨画展 4/30㈬～5/5㈷

【ギャルリVEGA】

- シモーヌ近藤オリジナルビスクドール展 4/2㈬～7㈪
- 第2回伊澤友梨墨彩画教室作品展 4/2㈬～7㈪
- 第49回池田市美術展 4/13㈰～19㈯
- 刺し子あじさいの会 4/23㈬～28㈪
- 手描染色しらゆり会作品展 4/23㈬～28㈪
- とんぼ玉・ランプ・ガラスアクセサリー展（賀内太一） 4/30㈬～5/5㈷
- 押し花クラフトグループ展「植物で描く浮世絵展」 4/30㈬～5/5㈷

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㊵

電話の開通

番号順の電話帳

電話は、明治9年（1876）、アメリカのベルによる発明とされています。日本では明治23年に国営の事業としてスタートしました。

同35年3月に池田電話所が発足し、池田で電話交換業務が開始されます。この業務は、昭和24年（1949）に電信電話事業が分離されるまで、池田郵便局に併置されて行われていました。

発足7年後の明治42年の電話帳に記載されている池田局の加入数はわずか四十数件。電話番号も1番から順に付され、掲載も現在のように五十音順ではなく、番号順。加入者は、会社、商店、料理業、役所などが大半で、まだ一般の人々には、なかなか手が届かない存在でした。

昭和9年の池田郵便局電話交換室の様子（歴史民俗資料館蔵）

つながるまでに3時間

当初は、加入者が発電機のハンドルを回し、交換手を呼び出す方式でしたが、昭和9年（1934）、府内の町村で初めて、自動交換式に切り替わりました。これにより、同局内などの一部地域に限定されてはいたものの、ダイヤル付きの電話機で相手の番号を回して、直接相手を呼び出すことができるようになりました。しかし、戦局の悪化に伴い、再び呼び出し式に戻ってしまいます。

ちなみに、戦後の同28年、池田から交換手を呼び出して、相手と実際につながるために要する最長時間は、繁忙時で、石橋局内まで20分、近隣市町村では30分前後、神戸までになると1時間30分ほどかかるとされています。

また、このとき需要の大きい大阪へは即時通話をうたっていますが、これまでは混雑する時間帯には、つながるまでに普通で3時間以上、特急でも1時間20分というような状態だったようです。

同年の池田市内の電話の普及率は、芦屋市、京都市に次いで全国3位、百人につき3・8台と、全国平均2・4台を大きく上回っていることが報じられています。

市外扱いだった石橋局

昭和32年、池田局に自動交換式が導入、同時に石橋局も統合されます。従来、同じ市内であるにもかかわらず、市外扱いだった料金が、ようやく市内料金に統一されました。

その後、少しずつ回線の充実が図られ、直接の通話が可能な地域が広がっていきます。日本すべての地域の電話が呼び出し式でなくなり、完全に自動化されたのは、同54年のことです。

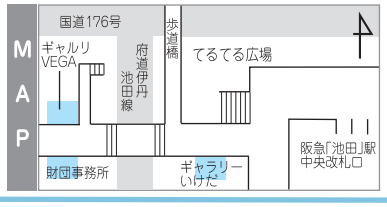
無駄な長話はやめましょう

ところで、昭和28年当時のパンフレットには電話の正しい使い方として、「送話器は口から3センチくらい離して普通に相手と向かって話をするときの音声で話してください」「無駄な長話や口げんかをすることはやめましょう」「ぬれぞうきんでふいたりすると故障の原因に」「通話は9分まで」などとあります。

今や一人1台とまで言われるようになった携帯電話の普及をみると、55年ほど前のパンフレットは、まさに隔世の感があります。

問い合わせは社会教育課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ～水墨画でゆくヒマラヤ紀行～足立勇水墨画展　～5/5㈷
- 墨画展（一氏法香）　5/7㈬～12㈪
- 福島秦子おし花展　5/14㈬～19㈪
- 田中裕子展―日本画―　5/21㈬～5/26㈪
- 坂井孝正個展　5/28㈬～6/2㈪

【ギャルリVEGA】

- とんぼ玉・ランプ・ガラスアクセサリー展（賀内太一）　～5/5㈷
- 押し花クラフトグループ展「植物で描く浮世絵展」　～5/5㈷
- 日本画・柳原泰之展　5/7㈬～12㈪
- 藍・柿渋染展（大井豊凡・まゆみ）　5/14㈬～19㈪
- DELLTAⅦ　5/14㈬～19㈪
- ザ・スペース小品展　5/21㈬～26㈪
- “遊・織・染・色”　5/28㈬～6/2㈪

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）